

プレスブレーキ 作業開始前点検

(労働安全衛生規則第 136 条に基づく点検)

モータ 起動前にすること①～③

① 外観のチェックをしましょう！

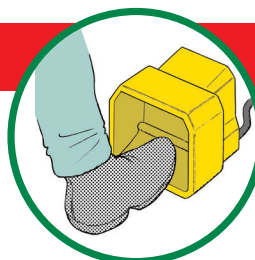
- 亀裂、破損、脱落、油漏れはないか？



外観のチェック

② フートスイッチを点検しましょう！

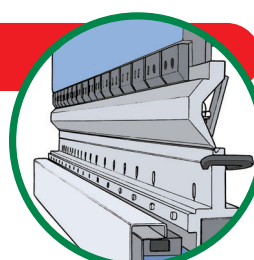
- 外観の変形、ケーブルの損傷はないか？



フートスイッチの点検

③ 金型を点検しましょう！

- 金型は確実に固定しているか？
- 金型に損傷はないか？

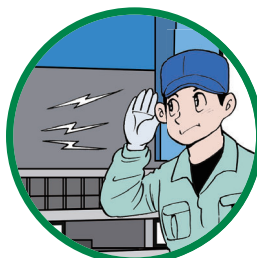


金型の点検

モータ 起動後にすること④～⑥

④ モータからの異音は無いかを確認しましょう！

- 異音はしないか？



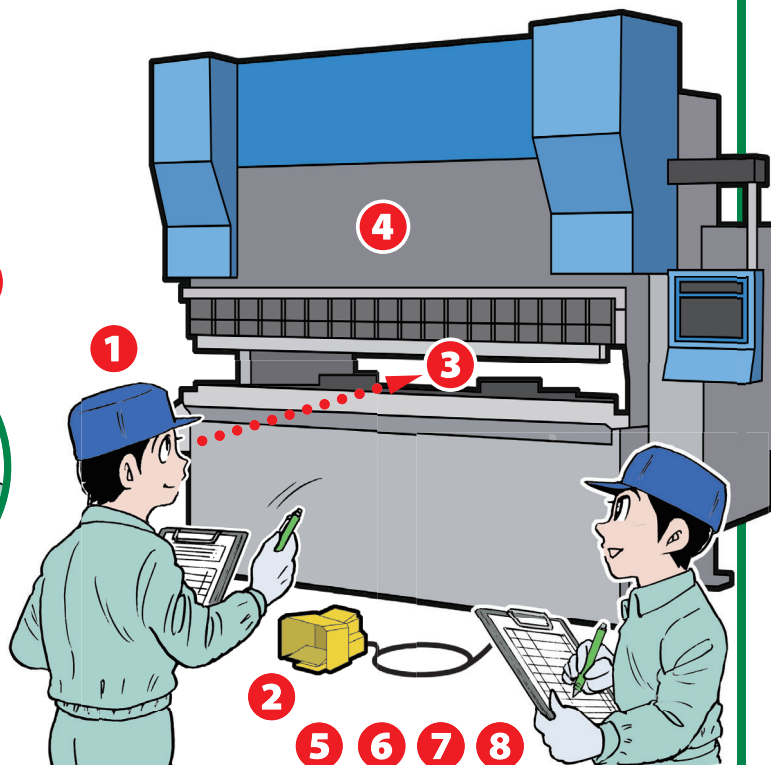
モータからの異音の確認

⑤ 一行程一停止機構の点検をしましょう！

- 正常に作動しているか？

⑥ 非常停止の動作確認をしましょう！

- 非常停止ボタンを押すと機械は停止するか？



安全装置について⑦～⑧

⑦ 投光器・受光器の点検をしましょう！

- 損傷や脱落はないか？
- 取付け位置や各種設定は適正か？
- 汚れの付着はないか？

⑧ 安全装置の作動を点検しましょう！

【光線式】

- 安全装置を遮光すると機械は停止するか？

【レーザ式】

テストピースを使用して以下の決められた確認を行う

- 上型に対しレーザ光線の位置は正しくセットされているか？
- テストピースで停止させ、上型に接触していないか？



光線式



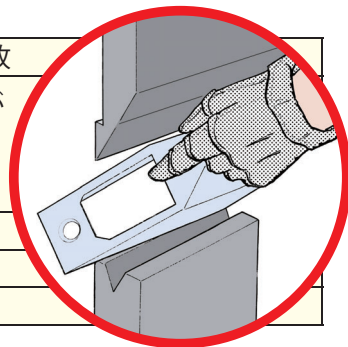
レーザ式



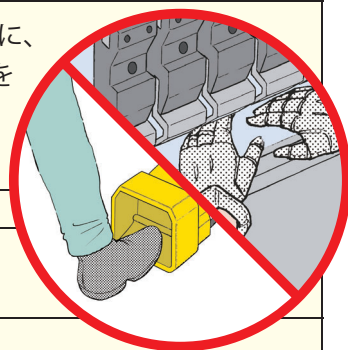
OK!

プレスブレーキの災害事例

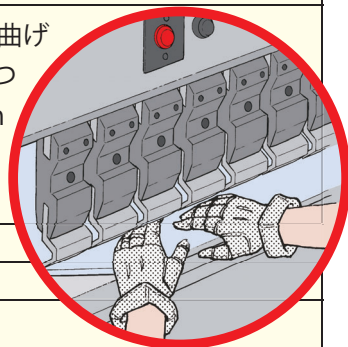
1	被災部位・程度	加工機にオペレータの左手指2本・右手3本が挟まれたことによる骨折事故
	事故状況	小さな材料を加工中、両手でワークを突き当てラム下降最中に誤って材料が突き当てからはずれ、その勢いにより金型内に両手が入り、左手指2本・右手3本の骨折を負った。
	安全装置	無し
	安全装置の状態	—
	対策	安全装置の取付け及び突き当て形状の変更。



2	被災部位・程度	加工機にオペレータの右手中指を挟まれたことによる骨折事故
	事故状況	金型に近い位置での突き当てを必要とするワーク加工で、材料突き当て時に、誤って材料が突き当てに当たらずバックゲージ側まで滑った。この材料を上下の金型隙間から指で引き戻そうとした際に、誤ってフートスイッチを踏んでしまい、ラムが下降し右手中指の骨折を負った。
	安全装置	光線式安全装置
	安全装置の状態	光線式安全装置無効。 危険限界に身体の一部が入ってしまう作業の為 OFF で作業。
	対策	安全装置を無効にしないこと。



3	被災部位・程度	加工機にオペレータの右手親指を挟まれたことによる欠損事故
	事故状況	1300 × 500mm 板厚 0.35t の材料の長辺を 5mm 曲げる工程で、一边を曲げ二辺目を曲げる際に本来、反転させて、曲げる箇所から離れた辺を持つように社内指導されているが、今回はそのまま奥まで材料を押し込み 5mm の曲げ代側を持っていた為、金型クランプ面と加エワークに挟まれてしまい、右手親指第一関節上部の欠損障害を負った。
	安全装置	無し
	安全装置の状態	—
	対策	治具の作成と安全の再教育。 及び、直接の対策ではないが安全装置の取付け。



4	被災部位・程度	工場の壁に立てかけた鋼板が倒れ、オペレータの胸部圧迫による死亡事故
	事故状況	工場の壁に鋼材置き場として鋼板（長さ 0.5 ～ 1 m ・ 幅 40 ～ 80cm）が、70 枚程度（重量約 400kg）立てかけてあった。鋼材を取るために鋼板倒れ止めチェーンを外して鋼板を選別中に鋼板が倒れ込み、加工機との間に胸部をはさまれ被災した。
	安全装置	無し
	安全装置の状態	—
	対策	鋼材は、平置きとして鋼材の種類や長さごとに区分けして置くことのできる 架台を設置。 作業ごとに作業標準を作成し、現場に徹底するよう安全教育を行う。

